

平成29年（2017）4月 入域観光客数概況

4月の観光客数は、75万9,200人
対前年（H28）同月比 +7万7,700人、+11.4%
～4月の過去最高更新、各月の過去最高を42ヶ月連続更新～

入域状況

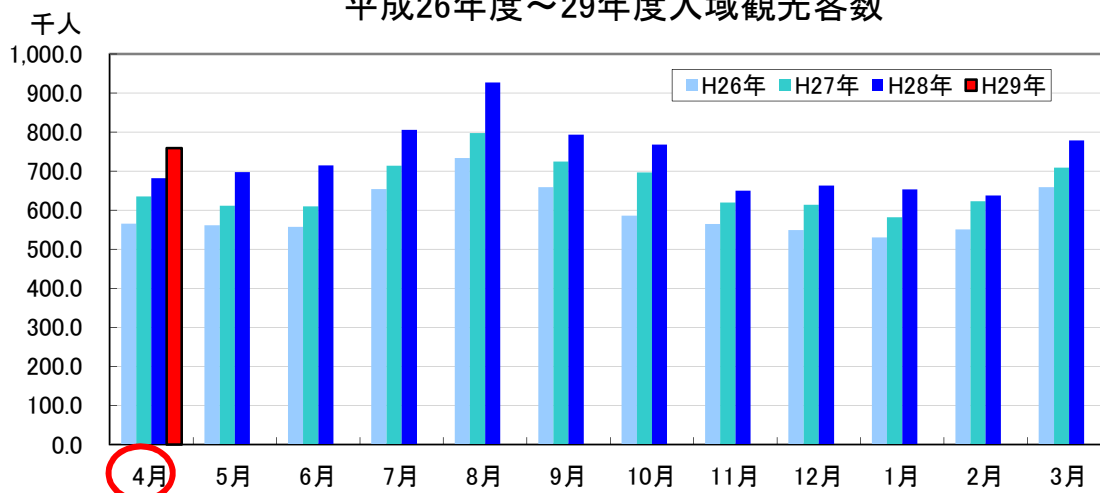
入域観光客数（平成28年度との比較） ※外国客については、乗務員等を含む

区分	H29年度	H28年度	増減数	増減率	構成比
国内客	541,600 人	519,300 人	+ 22,300人	+ 4.3%	71.3%
外国客	217,600 人	162,200 人	+ 55,400人	+ 34.2%	28.7%
合計	759,200 人	681,500 人	+ 77,700人	+ 11.4%	100.0%

【参考】入域観光客数（平成28年度との比較） ※外国客については、乗務員等を除く

区分	H29年度	H28年度	増減数	増減率	構成比
国内客	541,600 人	519,300 人	+ 22,300人	+ 4.3%	73.9%
外国客	190,800 人	140,400 人	+ 50,400人	+ 35.9%	26.1%
合計	732,400 人	659,700 人	+ 72,700人	+ 11.0%	100.0%

平成26年度～29年度入域観光客数



国内客 入域状況

4月は、航空会社の増便等により輸送実績が増加したことや、県内での大型イベントの複数開催等により、主要方面で前年を上回った。

5月は、ゴールデンウィークの日並びが良く、旅行会社や航空会社の予約状況が良好で臨時便が運航されたことや、夏期運航期間において路線の拡充による提供座席数の増加が見込まれることから、好調に推移する見込み。

外国客 入域状況

4月は、韓国・大邱及び中国・西安－那覇路線の新規就航を含む航空路線の拡充があったことや、クルーズ船の寄港増等から主要方面で前年を上回った。

5月以降は、台北－那覇路線の増便など航空路線の拡充があること等から、空路客を中心に好調に推移する見込み。

国内客 地域別入域状況

区分	H29年度	H28年度	増減数	増減率	構成比
東京方面	251,300 人	246,000 人	+ 5,300人	+ 2.2%	46.4%
関西方面	115,200 人	114,300 人	+ 900人	+ 0.8%	21.3%
福岡方面	68,000 人	61,100 人	+ 6,900人	+ 11.3%	12.6%
名古屋	46,700 人	41,800 人	+ 4,900人	+ 11.7%	8.6%
その他	60,400 人	56,100 人	+ 4,300人	+ 7.7%	11.2%
合計	541,600 人	519,300 人	+ 22,300人	+ 4.3%	100.0%

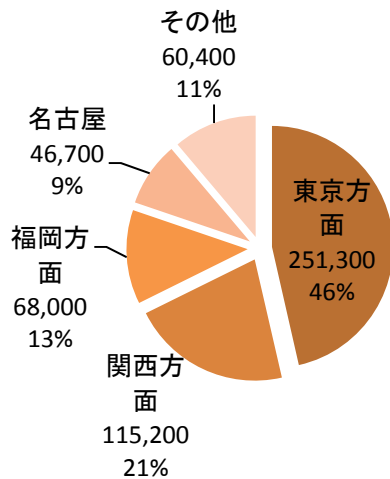
※国内海路客2,200人を含む(鹿児島1,800人、福岡300人、関西100人)

外国客 国籍別入域状況

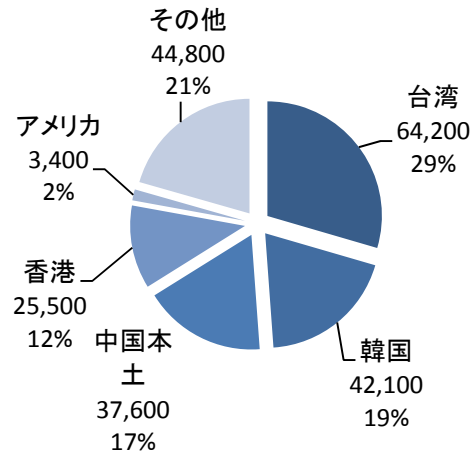
増減数及び増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	H29年度	H29年度	H28年度	増減数	増減率	構成比
	(乗務員等含む)	(乗務員等除く)	(乗務員等含む)			
台湾	64,200 人	64,200 人	50,300 人	+ 13,900人	+27.6%	29.5%
韓国	42,100 人	42,100 人	27,900 人	+ 14,200人	+50.9%	19.3%
中国本土	37,600 人	37,600 人	36,600 人	+ 1,000人	+2.7%	17.3%
香港	25,500 人	25,500 人	15,300 人	+ 10,200人	+66.7%	11.7%
アメリカ	3,400 人	3,400 人	2,000 人	+ 1,400人	+70.0%	1.6%
その他	44,800 人	18,000 人	30,100 人	+ 14,700人	+48.8%	20.6%
合計	217,600 人	190,800 人	162,200 人	+ 55,400人	+34.2%	100.0%

国内客の地域構成比



外国客の国籍構成比



外国客 空路・海路の国籍別入域状況

増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	空路				海路			
	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比
台湾	47,600 人	47,600 人	+30.8%	33.4%	16,600 人	16,600 人	+19.4%	22.1%
韓国	42,100 人	42,100 人	+50.9%	29.5%	0 人	0 人	—	0.0%
中国本土	19,800 人	19,800 人	△2.0%	13.9%	17,800 人	17,800 人	+8.5%	23.7%
香港	21,900 人	21,900 人	+52.1%	15.4%	3,600 人	3,600 人	+300.0%	4.8%
アメリカ	2,200 人	2,200 人	+37.5%	1.5%	1,200 人	1,200 人	+200.0%	1.6%
その他	8,900 人	8,900 人	+81.6%	6.2%	35,900 人	9,100 人	+42.5%	47.8%
合計	142,500 人	142,500 人	+35.2%	100.0%	75,100 人	48,300 人	+32.2%	100.0%

各方面ごとの概況と見通し

東京

4月は、航空会社の搭乗率が増加したことや、県内での大型イベントの複数開催等により、前年を上回った。

5月は、ゴールデンウィークの日並びが良いことで、旅行会社や航空会社の予約状況が良好で臨時便の運航もあること等から、好調に推移する見込み。

大阪

4月は、スカイマークの増便により輸送実績が倍増したことや、離島直行便の輸送実績についても増加したこと等から、前年を上回った。

5月は、ゴールデンウィークの予約状況が良好なことや、提供座席数の増加が見込まれること等から、堅調に推移する見込み。

福岡

4月は、前年同月に比べて提供座席数が減となったものの、各航空会社の個人旅行商品の販売状況や、旅行会社の販売が増加したこと等から、前年を上回った。

5月は、ゴールデンウィークの日並びが良いことで、旅行会社や航空会社の予約状況が良好なこと等から、好調に推移する見込み。

名古屋

4月は、スカイマークの増便により輸送実績が約2.8倍と大幅に増えたことや、旅行会社の販売も増加したこと等から、前年を上回った。

5月は、ゴールデンウィークの日並びが良いことで、旅行会社や航空会社の予約状況が良好なこと等から、好調に推移する見込み。

台湾

4月は、前年同月に比べて各航空会社による航空路線の拡充があったことや、クルーズ船の寄港が増加したこと等から、前年を上回った。

5月以降は、沖縄へのインセンティブツアーの取扱いが多く見られることや、台北－那覇路線の増便計画等により堅調に推移する見込み。

韓国

4月は、中国から日本や東南アジアへ旅行客がシフトしていく傾向があったことや、ティーウェイ航空の大邱－那覇路線が新規就航されたこともあり、前年を上回った。

5月は、韓国国内の大型連休が最大9日間になっていることや、同期間に各航空会社が那覇空港にチャーター便を投入すること等から、好調に推移する見込み。

中国本土・北京

4月は、中国東方航空の西安－那覇路線が新規就航されたことや、旅行会社が韓国市場から日本市場に振り替える傾向が見られたこと等から、前年を上回った。

5月以降は、航空会社の予約状況が良好なことや、端午節休暇(5/28～30)による旅行需要が見込めること等から、堅調に推移する見込み。

中国本土・上海

4月は、前年同月と比べ航空路線数が拡充したことや、クルーズ船の寄港回数が増加したこと等から、前年を上回った。

5月以降は、航空会社の予約状況が良好なことや、クルーズ船の寄港増が予定されていること等から、堅調に推移する見込み。

香港

4月は、香港－石垣路線の増便など航空路線が拡充したことや、大型クルーズ船の寄港が開始されたこと等から、前年を上回った。

5月以降は、航空路線の増便に加え、ゲンティンドリーム号による那覇と宮古島へ寄港があること等から堅調に推移する見込み。